

平成29年度 鳴滝総合支援学校 前期学校評価アンケート集計結果 資料1 平成29年11月16日

	教職員	回答率 100%				保護者	回答率 99%				生徒	回答率 99%							
		よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない		よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない		よく出来ている	大体出来ている	あまり出来っていない	出来ていない				
学習について	①児童生徒は、自己目標をもち、課題を意識して学習に取り組んでいる	5.9%	76.5%	14.7%	2.9%	①子どもは、目標をもち、自分の課題をふまえて学習に取り組んでいる	19.4%	66.1%	14.5%	0.0%	①自分の学習目標がわかって、学習にとりくんでいる	46.2%	43.1%	10.8%	0.0%				
	②児童生徒は、満足感や達成感をもって学習に取り組んでいる	3.0%	78.8%	18.2%	0.0%	②子どもは、満足感や達成感をもって学習に取り組んでいる	14.5%	69.4%	16.1%	0.0%	②共通教科で学習していて「わかった」「できた」とおもうことがある	46.2%	46.2%	4.6%	3.1%				
	③児童生徒は、個別の包括支援プラン(キャリアプラン)に沿った「生きる力」を身につけてきている	12.1%	75.8%	12.1%	0.0%	③子どもは、学校や保護者が必要と考える「生きる力」を身につけてきている	14.5%	56.5%	29.0%	0.0%	②専門教科で学習していて「わかった」「できた」とおもうことがある	69.2%	30.8%	0.0%	0.0%				
	④教員は、個別の包括支援プラン(キャリアプラン)に基づいて計画的な指導を行っている	5.9%	64.7%	29.4%	0.0%	④子どもの目標や学習計画に基づいて、計画的に指導や支援をもらっている	36.1%	55.7%	8.2%	0.0%	③いろいろな知識や技能が身についてきているとおもう	47.7%	44.6%	4.6%	3.1%				
	⑤教員は学習効果を上げるため、指導法の改善に取り組んでいる	8.8%	47.1%	44.1%	0.0%	⑤子どもに理解しやすいように、授業や教材に工夫がみられる	26.2%	67.2%	6.6%	0.0%	④先生は、何を何のために勉強するかをはっきり教えてくれる	67.7%	26.2%	4.6%	1.5%				
	⑥教員は、児童生徒の努力や達成度について適切に評価し、プランの作成や指導法の改善に生かしている	8.8%	50.0%	38.2%	2.9%	⑥子どもの努力や達成度について、適切に評価してもらっている	35.5%	59.7%	3.2%	1.6%	⑤先生は、わかりやすく勉強を教えてくれる	60.9%	37.5%	1.6%	0.0%				
	⑦教員は、児童生徒が次の目標を持てるような評価をし児童生徒に伝えている	14.7%	67.6%	14.7%	2.9%	⑦子どもが次の目標を持てるように評価してもらっている	38.7%	54.8%	4.8%	1.6%	⑥先生は、学習の成果について、伝えてくれる	57.8%	32.8%	7.8%	1.6%				
生活について	⑧児童生徒は、あいさつや言葉遣いなど礼儀正しい学校生活を送っている	38.2%	55.9%	5.9%	0.0%	⑧子どもは、あいさつや言葉遣いなど礼儀正しい学校生活を送っている	34.9%	55.6%	9.5%	0.0%	⑦学習の成果を知って次の目標をたてている	34.4%	45.3%	17.2%	3.1%				
	⑨児童生徒は、学校のきまりや約束を守って学校生活を送っている	20.6%	73.5%	5.9%	0.0%	⑨子どもは、学校のきまりや約束を守って学校生活を送っている	44.4%	49.2%	4.8%	1.6%	⑧あいさつや、ていねいな言葉づかいができる	56.9%	33.8%	7.7%	1.5%				
	⑩児童生徒は、友達に対して思いやりをもち、お互いに協力している	14.7%	79.4%	5.9%	0.0%	⑩子どもは、友達に対して思いやりをもち、お互いに協力している	28.6%	58.7%	11.1%	1.6%	⑨学校のきまりや約束を守っている	52.3%	38.5%	6.2%	3.1%				
	⑪児童生徒は、任された役割を持って生活を送っている	32.4%	61.8%	5.9%	0.0%	⑪子どもは、任された役割を持って生活を送っている	31.7%	58.7%	7.9%	1.6%	⑩友だちへの思いやりをもち、おたがいに協力している	52.3%	40.0%	7.7%	0.0%				
	⑫児童生徒は、健康な生活を送ることを意識し、自分なりの維持管理に取り組んでいる	5.9%	79.4%	14.7%	0.0%	⑫子どもは、健康な生活を願い、自分なりの維持管理に取り組んでいる	20.6%	55.6%	23.8%	0.0%	⑪学校や家庭で自分にまかされた役割があり、実行している	44.6%	36.9%	13.8%	4.6%				
	⑬キャリアカウンセリングやケース会議により、進路方針の周知と共有ができる	21.2%	60.6%	18.2%	0.0%	⑬キャリアカウンセリングやケース会議により、進路方針の共有ができる	45.9%	47.5%	1.6%	4.9%	⑫病気や健康に気をつけながら、学校へかよっている	66.2%	18.5%	10.8%	4.6%				
	⑭キャリア教育の観点に立った、児童生徒の実態と進路に応じた進路学習や、校外実習の機会が用意できている	24.2%	66.7%	9.1%	0.0%	⑭子どもの実態と進路に応じた、進路学習や校外実習の機会が用意できている	42.6%	49.2%	6.6%	1.6%	⑬卒業後の進路や生活について、先生や保護者と相談できている	33.8%	44.6%	15.4%	6.2%				
将来に向けて	⑮キャリア教育の観点に立った、児童生徒の実態と進路に応じた関係機関との連携ができる	36.4%	51.5%	12.1%	0.0%	⑮子どもの実態と進路に応じた、関係機関との連携ができる	33.9%	54.8%	8.1%	3.2%	⑭卒業後の進路にむけた学習や実習にとりくむことができている	52.3%	40.0%	6.2%	1.5%				
	⑯企業との連携・協働による学習(実習)環境の設定ができる	39.4%	54.5%	6.1%	0.0%	⑯企業との連携・協働による学習(実習)環境の設定ができる	30.6%	66.1%	1.6%	1.6%	⑮卒業後の進路や生活について、いろいろな人から、アドバイスを聞くことがある	36.9%	43.1%	12.3%	7.7%				
	⑰地域との連携・協働による学習(実習)環境の設定ができる	24.2%	63.6%	9.1%	3.0%	⑰地域との連携・協働による学習(実習)環境の設定ができる	30.6%	62.9%	3.2%	3.2%	⑯企業の協力があり、職場実習などができるできていることに感謝している	72.3%	23.1%	4.6%	0.0%				
	⑱児童生徒が自己理解を深められるような取組をしている	15.2%	63.6%	21.2%	0.0%	⑱子どもは自分の長所に気付いている	6.5%	58.1%	32.3%	3.2%	⑰地域の協力があり、校外演習などができるできていることに感謝している	67.2%	28.1%	3.1%	1.6%				
	⑲教員は、児童生徒の自己肯定感を高めることを意識して指導に当たっている	9.1%	75.8%	15.2%	0.0%	⑲子どもの自己肯定感が高まっている	8.1%	50.0%	38.7%	3.2%	⑱自分の長所をよくわかっている	44.6%	38.5%	10.8%	6.2%				
	⑳自分は大切な存在だ、誰かに必要とされていると感じている					⑲自分は大切な存在だ、誰かに必要とされていると感じている					⑲自分は大切な存在だ、誰かに必要とされていると感じている	29.2%	38.5%	21.5%	10.8%				
	㉑日常的に教室の清掃、美化に取り組んでいる	48.5%	39.4%	9.1%	3.0%	㉑校内や教室は清掃され美しい状態である	71.0%	29.0%	0.0%	0.0%	㉑自己肯定感につながる項目は水色で表示								
教育環境について	㉒児童生徒の感染症予防を意識して、保健、衛生管理に留意している	30.3%	69.7%	0.0%	0.0%	㉒校内や教室は、衛生的で清潔な状態である	71.0%	29.0%	0.0%	0.0%	㉑各回答について								
	㉓校教具は機能的に使えるよう、整理整頓に努めている	33.3%	57.6%	9.1%	0.0%	㉓学習に使う教材や備品は、整理整頓されている	61.3%	38.7%	0.0%	0.0%	㉑プラス評価: 30%以上は薄ピンク、50%以上は濃いピンクで表示								
	㉔校地内の緑化、廃棄物の削減など、環境に配慮した取組が実践できている	45.5%	51.5%	0.0%	3.0%	㉔校地は緑化され、環境に配慮した様子がうかがえる	61.3%	37.1%	1.6%	0.0%	㉑マイナス評価: 30%以上は黄色で表示								
	㉕包括支援プラン(キャリアプラン)をもとに、短期目標や評価を保護者に適切に伝えている	45.5%	48.5%	6.1%	0.0%	㉕短期目標や評価について、学校は保護者に適切に伝えている	59.7%	35.5%	3.2%	1.6%	㉑								
	㉖週予定等により、学習内容や行事計画を保護者に適切に伝えている	51.6%	45.2%	3.2%	0.0%	㉖学習内容や行動計画について、学校は保護者に適切に伝えている	58.1%	37.1%	3.2%	1.6%	㉑								
	㉗保護者からの個別相談に、適切に対応している	54.5%	39.4%	6.1%	0.0%	㉗個別の相談について、学校は保護者に適切に対応している	54.8%	38.7%	4.8%	1.6%	㉑								
	㉘保護者は、本校の教育の趣旨、目的を理解している	18.2%	78.8%	3.0%	0.0%	㉘保護者として、本校の教育の趣旨、目的を理解している	28.3%	66.7%	5.0%	0.0%	㉑								
者ひとりの連携・保護に	㉙保護者は、参観・懇談・学習会などに積極的に参加している	12.1%	57.6%	30.3%	0.0%	㉙保護者として、参観・懇談・学習会などに積極的に参加している	18.6%	42.4%	35.6%	3.4%	㉑								
	㉚行事計画、特別活動等、学部間の連携は適切にできている	15.2%	66.7%	18.2%	0.0%	㉚自己肯定感につながる項目として挙げたものを中心					㉑								
	㉛学部間の共同の取組において、児童生徒は意欲的に活動している	39.4%	60.6%	0.0%	㉛学習について					㉑									
	㉜地域校との交流、共同学習において、児童生徒は意欲的に活動している	18.8%	62.5%	9.4%	9.4%	㉜・②の2項目は「そう思う」「大体そう思う」と答えた生徒が、それぞれ92.4%、100%(昨年度は97.0%、94.0%)となっている。学習面では、特に専門教科において多くの生徒が「わかった」「できた」経験を積み重ねていると考えられる。③でも、92.3%(昨年度は94.0%)とプラスに評価している生徒の割合が高い。「わかった」「できた」という経験を積み重ねて、学習したことが身についていると感じている生徒の割合が高いことがわかる。					㉑								
	㉝市民、他校種、関係機関等からの相談に誠意をもって応えている	36.4%	54.5%	6.1%	3.0%	㉝・同じ項目で保護者のアンケート結果を見ると、②で83.9%(昨年度は84.4%)とプラス評価になっているものの、③では29%(昨年度は22.6%)の保護者が「あまりできない」と答えており、生徒本人の回答と少し隔たりがある。子どもたちが、学習においては満足感や達成感をもっているが、「生きる力」が身につくところまでには至っていないと感じている保護者もいることがわかる。					㉑								
	㉞知的発達、病弱教育、キャリア教育等に関する自己研鑽を積んでいる	18.2%	57.6%	24.2%	0.0%	㉞・①では、プラス評価している生徒は81.5%(昨年度94.1%)となっている。お手伝いではなく任されているという実感を持っている生徒が多い。					㉑								
	㉟校務分掌組織に基づいて、自らの職務分担を適切に果たしている	27.3%	57.6%	15.2%	0.0%	㉟・教職員では94.2%、保護者は90.4%(昨年度は88.8%)がこの項目について、プラスの評価をしている。そこから、学校、家庭において生徒が役割を持って生活していることがいえる。					㉑								
校務について	㉟会議の精選と業務の効率化に取り組んでいる	18.2%	54.5%	27.3%	0.0%	㉟・④では、プラスに評価している生徒が92.3%(昨年度は92.4%)となっている。「学習について」「生活について」の各項目と同様に、プラスに評価している生徒の割合が高くなっている。一昨年度加えた⑥でも、プラス評価した生徒の割合が83.1%(昨年度83.4%)と高い割合を示している。「学習について」「生活について」であげた項目と「将来に向けて」の項目がすべて80%以上になっていることから、学習で「わかった」「できた」と思い、「いろいろな知識や技能が身についている」とおもうことが、自分の長所として意識されてきているのかもしれない。一方、自己肯定感に直結する項目として、㉗を設定しているが、今年度はこの項目について、設問の意味をよりわかりやすくするために、昨年度までの「かけがえのない存在(83.4%)」から「誰かに必要とされている存在(67.7%)」に変更した。文言を変えたことでなぜポイントが下がったかということは、アンケート結果だけで判断できないが、「必要とされている存在」という文言が生徒たちに更なる高い目当てととらえられたことが原因である可能性もある。					㉑				㉑				
	㉟学校教育目標の達成に向けて、適切な予算編成と執行に取り組んでいる	36.4%	51.5%	9.1%	3.0%	㉟・教職員の⑩、⑪の2つのアンケート項目は、どちらも80%程度プラス評価をしている。しかし、保護者の⑩では64.6%(昨年度は54.1%)にとどまり、子どもの83.1%に比べるとやや隔たりが見られる。また、保護者の⑪では、プラス評価をしている保護者の割合が58.1%(昨年度は73.8%)とやや低い。学校でのキャリアカウンセリング等で、子どもの変化を肯定的に捉えその成長を本人、保護者とともに					㉑								
	㉟各種文書、個人情報等の適切な管理と手続きに取り組んでいる	51.5%	48.5%	0.0%	0.0%	㉟				㉑									
	㉟報告、連絡、相談を常に意識し、情報の共有に努めている	45.5%	42.4%	12.1%	0.0%	㉟				㉑									
	㉟					㉟				㉑									
	㉟					㉟				㉑									
	㉟					㉟				㉑									

## 自己肯定感につながる項目として挙げたものを中心に 学習について

②の2項目は「そう思う」「大体そう思う」と答えた生徒が、それぞれ92.4%, 100%(昨年度は97.0%, 94.0%)となっている。学習面では、特に専門教科において多くの生徒が「わかった」「できた」経験を積み重ねていると考えられる。③でも、92.3%(昨年度は94.0%)とプラスに評価している生徒の割合が高い。「わかった」「できた」という経験を積み重ねて、学習したことが身についていると感じている生徒の割合が高いことがわかる。学習面では生徒が自信をつけてきていると捉えられる。

同じ項目で保護者のアンケート結果を見ると、②で83.9%（昨年度は84.4%）とプラス評価になっているものの、③では29%（昨年度は22.6%）の保護者が「あまりできていない」と答えており、生徒本人の回答と少し隔たりがある。子どもたちが、学習においては満足感や達成感をもっているが、「生きる力」が身につくところまでには至っていないと感じている保護者もいることがわかる。

⑪では、プラス評価している生徒は81.5%（昨年度94.1%）となっている。お手伝いではなく任されているという実感を持っている生徒が多い。  
教職員は94.2%、保護者は90.4%（昨年度は89.9%）がこの項目について、プラスの評価をしている。そこから、学校・家庭において生徒が役割を持って生活していることがいえる。

扶助対象者は94.2%, 保護者は90.4% (昨年度は88.8%)がこの項目について、ソーシャル評価をしている。これから、学校、家庭において生徒が役割を持って生活していくことが求められる。

⑯)では、プラスに評価している生徒が92.3% (昨年度は92.4%) となっている。「学習について」「生活について」の各項目と同様に、プラスに評価している生徒の割合が高くなっている。昨年度加えた

それでも、プラス評価をした生徒の割合が83.1%（昨年度83.4%）と高い割合を示している。「学習について」「生活について」であげた項目と「将来に向けて」の項目がすべて80%以上になっていることが、学習で「わかった」「できた」と思い、「いろいろな知識や技能が身についてきているとおもう」ことが、自分の長所として意識されているのかもしれない。一方、自己肯定感に直結する項目として、⑯を「まだ空室」しているが、今年度はこの項目について、設問の意味をよりわかりやすくするため、昨年度までの「かけがえのない存在（83.1%）」から「誰かに必要とされている存在（67.7%）」に変更した。文言

えんじていいのか、半度はこの項目について、該向の意味をヨイワガバヘーリンにみる、MF半度までの「かがんのない仕事」8.3%、「かわら」等が「必要とされていく仕事」8.7%、「変更」等が「変えていくこと」でなぜボーポイントが下がったかということは、アンケート結果だけでは判断できないが、「必要とされている存在」という文言が生徒たちに更なる高い目当てととらえられたことが原因である可能性もある。

教職員の⑯、⑰の2つのアンケート項目は、どちらも80%程度プラス評価をしている。しかし、保護者の⑯では64. 6%（昨年度は54. 1%）にとどまり、子どもの83. 1%に比べるとやや隔たりが見られる。また、保護者の⑰では、プラス評価をしている保護者の割合が58. 1%（昨年度は73. 8%）とやや低い。学校でのキャリアカウンセリング等で、子どもの変化を肯定的に捉えその成長を本人、保護者とともに